





大内

秋が訪れました。豊かな実りの季節ですが、だんだん日が短くなって いくと、ちょっと心細くもなります。そして迎える冬至。太陽の光が一番 弱くなり、私たちの心身も弱りがち。そんな時期に力を与えてくれるのは、 暖かい楽の音とそこに生まれる人の輪。

北半球の国々では、古代から冬至の祭りが行われてきま した。有名なところでは、ゲルマン民族の「ユール」という

お祭り。薪を燃やし、特別な御馳走を精霊や祖先たちに捧げました。中国文化圏でも冬 至は特別な日。陰の力が陽の力に変わる節目であり、天と祖先を祀る祭りが行われまし た。そして日本でも、冬至の頃には「霜月まつり」と呼ばれる大きな催しが各地で行われ てきました。湯を沸かした大釜のまわりで幾晩も歌い踊り、魂の生まれ変わりを祈る祭

冬至の祭りは、陽光の衰えにつれて弱まった私たちの活力を復活させる工夫でした。 特別な料理を分かち合い、ともに歌い踊ることで、コミュニティに新たな活力を生み出す 一素敵な知恵ですね。

## クリスマスの音楽

ヨーロッパの冬至の祭りを 引き継いだのが、キリスト教の

クリスマスです。太陽の復活=再生に、イエスの誕生を重ねました。クリス マスに音楽は欠かせません。キャロルやハンドベルの音色、そして荘厳な オルガンの響きで彩られるクリスマス礼拝。街にもクリスマス・ソングがあ ふれます。ひとが集まってともに歌い、音楽を楽しみ、そこに生まれる暖か なつながりから力を得る。冬至の祭りから引き継がれた文化が生きていま す。





▲宮城学院女子大学聖歌隊

2015年にはじまった本学の「クリスマスマーケット」でも、音楽は柱の ひとつです。学生・生徒、教職員スタッフ、地域のみなさまがキャンパスに 集い、マーケットのさまざまな催しと一緒に音楽を楽しむひととき。温かい 響きは、心の凝りをほぐし、胸の奥に健やかな力の種を撒いてくれます。



▲ クリスマスマーケットでの楽友ネットワーク会員ステージ



クリスマスを厳かに支えるオルガンの響き。クリスマスに限らず、教会音楽にな くてはならないものであり、クラシック音楽の数々の名曲を生んだ響きでもありま す。オルガンの音色に包まれていると、それだけで身が浄められ、心に光が差し込むような気がしま す。この音色は、パイプの中を風が通ることで生まれますが、実は、これと同じしくみをもつのが、日 本の雅楽で使われる笙(しょう)です。こちらは仏の浄土に響く音色とされました。ひとの心が求める 響きは、洋の東西を超えて通じているのかもしれません。

